事例No.	2497
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・移住定住 ・関係人口

事例種類	地域振興

事例内容・タイトル

地域の課題・難題に何でも挑戦！協働の地域づくり

出典

令和5年度優良事例表彰一覧

総務大臣賞

宮城県丸森町（まるもりまち）

一般社団法人筆甫（ひっぽ）地区振興連絡協議会

地域の課題・難題になんでも挑戦！協働の地域づくり



住民待望の「ひっぽのお店」。地区住民が集まる憩いの場にもなる。

審査講評

評価のポイント

- 東日本大震災、台風災害を経験し、10年あまりの時間をかけて地域のことをみんなで考え、公民館活動を下地にしながら一生懸命に向き合っている点。
- 地域運営組織を、多様なチャレンジを通して地域の経験値を上げ、「多様な打ち手」を増やしていく場としての位置づけがなされている点。

審査委員のコメント

地域住民の協力と挑戦心が生んだ成功。

暮らしを支える「守り」の活動から、新たな生業づくりや移住者受け入れなどの「攻め」の活動まで、興味関心ある住民とともに、多様なチャレンジに取り組まれています。地域運営組織という場の活かし方とその設えのポイントを、10年あまりの協議会の歩みから学び取ってもらいたいです。

今後、人口減少と高齢化が一層進む中で、地域内外に担い手を広げながら、どのように地域運営のメリハリをつけていくのか、次の大きな挑戦に向き合い始めていると考えます。



取組の概要

平成22年度に丸森町から筆甫まちづくりセンターの指定管理を受けたことを契機に、地域住民自らが住み慣れた地域で安全・安心に自分らしく暮らすことができる地域社会の構築を目指し事業を開始。

地域の重要課題であった獣害対策としてイノシシ対策、高齢者の困りごとを解決する「お助け隊」、特産品である「へそ大根」のブランド化、買い物弱者対策として店舗の開設、ガソリンスタンドの事業承継など、暮らしやすい地域を住民自らがつくり続け、「地域の自立」や「持続可能な社会の形成」を具現化している。



毎週1回、高齢者宅を周る移動販売。地域住民の買い物支援と見守りを兼ねる。



地域唯一のガソリンスタンドを事業承継。暮らしのライフラインを守る。



特産品のへそ大根づくり。体験会には地域外から多くの人が参加する。



地域でできる獣害対策。地域自らイノシシを捕獲。

取組のKEY PLAYER



庄司 一郎さん
［一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会 代表理事］



吉澤 武志さん
［一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会 事務局長］

地域内外の連携強化によって、移住者の増加を実現したい。

筆甫地区振興連絡協議会は、地域運営組織として地域に暮らす住民一人ひとりの暮らしをより良くするために、

①住民の協力を得るため、筆甫地区振興連絡協議会の存在・意義を周知し続ける。
②地域課題解決への挑戦を通して、地域の経験値を上げる。
③多様な地域課題解決への挑戦を、興味関心を持つ住民と取り組む。
④専門家などの外部の力を地域に入れることや、地区内に新たな主体を創出する。

以上の4点を大切にしながら、さまざまな事業に取り組んでいます。今後も地域の暮らしを良くする事業を展開しながら、将来的に筆甫地区への移住につながるよう地域外との連携を強化していきたいと思います。

審査による現地調査でのヒアリング対象者

庄司 一郎さん［一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会 代表理事］／ **吉澤 武志**さん［一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会 事務局長］

宮城県丸森町（まるもりまち）

団体名 …… 一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会
所在地 …… 〒981-2201 宮城県伊具郡丸森町筆甫字和田80番地2
連絡先 …… TEL：0224-76-2111 FAX：0224-73-6008
E-mail：hippo-kou@town.marumori.miyagi.jp
URL：https://www.facebook.com/marumori.hippo/



自治体・団体の詳細はこちらからご覧いただけます。